

地元自民党区議の情報紙 26年9月下旬号 85号

とりがい秀夫の地域ニュース

南千住8-3-3-201 電話 090(1201)1297

携帯メール torigaihideo@ezweb.ne.jp



荒川複合施設着工29年完成 (中央図書館・文学館・子供施設)

荒川区はこの度、町屋博善社葬祭場とサンパール荒川の間、中間に位置する場所【旧・大出メッキ跡地】に敷地面積4,100㎡の土地を購入し、老朽化した現在の荒川図書館の代替施設としての中央図書館の建



設と、これに併設して荒川区出身の作家、吉村昭氏の文学館・そして絵本なども多く取り入れた子供支援施設を建設することになりました。建設費や図書などの購入費等を加えると約70億円位の経費が掛かりますが、この地域は木造密集地域であるためこの機会に道路を拡幅し、防災対策にも対応できるように周辺環境を整備したりして国から10億円程の補助金を確保いたします。5階建て。11,000㎡。

施設名称を募集！文学館友の会設立

施設がどんなに立派なものであっても、それ以上にたいせつなのは、愛称名です。文教・子育て委員会で報告の後に詳細が発表されます。【区報10月号に掲載予定】是非皆様のアイデアをお待ちします。【問い合わせ先 3802-3111 内線2256】合わせて今後は「友の会」設立も準備中。是非加入してください。【詳細は未定】

汐入の秋は行事満載

必見！マンションの防災対策講演会 ～ 初動期の安否確認の方策等を考える～

日時 9月28日〔日〕PM3～4時30分

会場 汐入町会事務所（防災センター）噴水広場となり

会費 無料 講師 防災都市計画研究所 石原寛之氏

主催 汐入町会・東京都総務局総合防災部

マンションでの生活継続に必要な条件と課題について
各建物の全員の皆様 あなた自身の問題ですよ！

初開催・汐入水辺フェスタ・夕日見クルーズ みんなの南千まつり・隅田川夕日見同時開催

日時 10月13日【祝日】10時～15時

会場 汐入公園一帯と隅田川を利用

出店 ヘブンアーティストのパフォーマンス

水辺のファミリーコンサート

人力車搭乗体験 キッチンカーの飲食提供

竹とんぼ作り ノルディックウォーキング教室

詳細は 10月1日号の荒川区報に大きく掲載予定

全国造園フェスティバルIN汐入

日時 10月11日【土】13時30分～

会場 汐入公園サービスセンター前

花の種プレゼント～なくなり次第終了

球根掘み取り ～なくなり次第終了

寄せ植え体験

問い合わせ先 汐入公園サービスセンター 3807-5181

都バス停留所の時刻表文字が拡大 (南千住駅～汐入～3丁目地区・9月から)

都バス停留所の時刻表をもっと大きくしてほ

住民の提案が実現・崎山都議交通局に要望

8月号で掲載した「都バス停留所の時刻表」。数字が小さく読みづらいのもっと大きく出来ないのでしょうか？との利用者からの提案について、さっそく崎山都議に連絡をしました。9月になって交通局から連絡が入り、9月下旬から汐入地区を対象に10か所のバス停で張替ますとの事でした。



具体的には、今回は紙の大きさを変えず、文字を現在より15%程大きくなりますので今の物より見やすくなります。たかが「時刻表」。されど「時刻表」。たとえ読みづらくても、今ある形が当たり前と思っていることでも、どこかに相談すると何とか解決策が見つかるものだと思います。この提案の結果、現在より見やすくなった場合、他のバス停の時刻表も同じように拡大される事を働きかけていきます。

区議会自民党 区長に予算要望書提出

荒川区議会自民党12名は9月5日、西川区長を訪ね、27年度の予算要望書を渡しました。200項目に及ぶ項目には高齢者対策。子育て支援。子供たちの安心、安全対策。防災対策。商店街振興。スポーツ振興。等々、区民の暮らし向上の問題を提案しました。



地域の歴史を訪ねて 50

写真が語る隅田川貨物駅 115年の歴史

明治30年に開業してから115年。私たちの身近な風景として溶け込んでいる「隅田川貨物駅」。現在のララテラスもメトロの基地も一帯が貨物駅の構内ですから大変大きな輸送基地でした。当初は福島県の常磐炭鉱地帯から出土する、良質な石炭を東京まで運び、そこから工業地帯へ供給してきた重要なエネルギーの集散基地です。開業当初の線路はわずか5本で出発した小さな貨物駅はその後、明治36年、3丁目に開業した東京ガスへ供給するために住宅地の中まで専用線を新設【昭和47年停止】。大正に入り荷物の取り扱いも増加し、鮮魚ホームや家畜などの荷卸し場も出来、大正15年にはさらに汐入のマンション「トキアス」の場所にあった日本石油の専用線も新設されるようになりました。関東大震災のときには構内は大被害を受けるが皮肉にも茨城県方面からは魚が大量に上がるようになり、この貨物駅からの荷捌きをするために、汐入に魚市場が開設されます【本誌56号に掲載】

家畜取扱場

大正15年に家畜線新設。ずらりとつながれた牛の群れは、当時ならではの光景だ。



家畜専用線 T 15年



運ばれた石炭は内陸部へ輸送された。

運ばれた石炭は舟で各地へ



日本石油への専用吊り橋

戦時中には捕虜収容所の一部にも

昭和39年東京オリンピックの年には1日42,000個の荷物を取扱い、名実共に日本一の輸送基地になりました。昭和19年には500人ほどの連合軍の捕虜を収容し、荷役の為に働かせた歴史もあります。【本誌34号に掲載】。昭和40年にはセメント輸送も始まりました。住友・三菱・日立・日本セメント会社からの寄贈で44年から一日50両、1500トンの輸送を開始。この場所も平成28年、2年後には、このサイ口の跡にホームセンターが開設されるのですから時代の移り変わりは興味が湧きます。現在の取扱は年間約80万トンとの事です。